

## 実践報告書

広島県立広島皆実高等学校  
(教諭・大柱 眞奈)**本実践のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本洋子）**

本実践は、対象者に必要な看護援助の方法を具体的に検討させ、気がついた成果や課題を生徒間で共有することで、看護者が援助の目的を達成するために大切にしている視点について気付かせ、看護実践能力を育成するよう工夫された授業実践となっています。

また、事例を用いたりVTRを視聴させることで、経験の少ない生徒が患者の状態や背景を具体的にイメージできるよう工夫がなされています。

## 1 はじめに

日常生活の援助を行うにあたり、援助の必要性を科学的に考え、安全と安楽に配慮し生活習慣を整えるとともに、対象の心身の状態に応じて身体的、心理的、社会的側面と相互作用があることを理解し、個別性のある援助方法を計画し、実践することが求められている。

## 2 問題の所在

対象者の心身の状態を考慮した個別性のある援助方法について考えられるよう、生徒が理解しやすい事例を設定し、対象者が病気により今までの清潔習慣を取り入れることができなくなったこと、またそれに伴い心身への影響につながっていることを気付かせたい。また、事例を想定したVTRを生徒に視聴させ、患者の状態や背景をイメージできるようにすることで、対象者に必要な看護援助の方法を具体的に検討させ、立案した援助内容を実践することに繋げたい。そこから、気がついた成果や課題を生徒間で共有することで、看護者が援助の目的を達成するために大切にしている視点について気付かせ、看護実践能力を養うことを目指したい。

## 3 具体的な取組み

- (1) 事前に提示している事例をVTRで視聴し、患者へ洗髪を実施する目的を再確認させた。
- (2) グループで事例患者の状態に応じた洗髪の工夫点について、スライドにまとめた内容を発表させ、他の生徒から良い点や改善点を考えさせ発表させた。
- (3) グループワークを行い、「援助の目的を達成するために看護者として大切なことは何か」について考えさせ、ホワイトボードにまとめさせた。
- (4) グループで考えた内容について発表させ、学びを共有した。
- (5) 本日のまとめを行い、生徒に本日の学びを今後の看護活動にどのように活かしていきたいか振り返らせた。

## 4 成果と課題

生徒が理解しやすい事例を設定し、さらに事例の場面についてVTRを視聴することで、経験が少ない1年生でも対象者に援助するイメージが具体的になり、既習の学習と結びつけながら患者の心身の状態に応じた看護援助の方法について思考することができた。生徒は授業後の学びとして「対象者によって生活環境や考え方が異なるため、身体的・心理的・社会的側面から患者を理解して、安全・安楽な援助を計画することが大切である。」「病気によって今までの清潔習慣を取り入れられないことを理解し、患者の価値観や患者の希望に添えるようコミュニケーションを図りながら、必要な援助を考えたい。」と記述している。このことから今回の学習目標を達成することができたと考え。課題として、生徒は思考したことを表出することができていたが、生徒間同士の対話の時間が少なく、生徒同士で思考を深め合う時間が十分に確保できなかったことが挙げられる。今後は生徒の意見を活かし、相互に考えを深める学習過程にするために、生徒の学習状況、到達度に応じた授業設計の工夫を行う必要があると考える。このことにより、生徒自身がさらに考えを深めることができ主体的に自律した学習を行うことで看護実践能力の育成に繋がると考える。

## 5 おわりに

今回の授業を通して、対象のADLや心身の状態を考慮しながら個別性のある援助方法について考え、看護者として必要な態度を養うことに繋がったと考える。今後も、指導方法や教材を工夫することで、生徒同士の対話を深め、主体的に学び看護実践能力の向上を図ることのできる授業づくりに取り組んでいきたい。